

テレビ朝日「総理と語る」 省エネ現場での対話（抄）

（昭和五十五年一月二十三日 味の素・川崎工場）

省エネを実践して成果を上げている味の素川崎工場を見学したあと、同工場の会議室で社員百二十人との対話集会。

司会（小松練平） 大平さんは、かねてから、脱石油ということを強く言われておりますし、またよその国に先がけて七パーセントの石油の節約という大きな目標をわれわれに示しておられます。産業界の大勢はすでに省エネとは真剣に取り組んでおります。

さて、きょうここにお集まりいただいたおよそ百二十人の方たちは、省エネを見事に果たしたこの工場の各職場から参加をいただきました。また考えてみますと、大平さんが総理就任後、こういった現場、工場へ来られたのは初めてですし、エネルギーに関してこうした人達とじかに話をするというのも、はじめてのことです。

総理は、大変な節約家であるとうかがっていますが、総理ご一家は日常どのような省エネ活動をなされているか、その辺をお聞かせ下さい。

大平 まあ皆さんのご家庭と同じでございますので、電気節約とガスの節約と、風呂をなるべく満杯に

しないように半分の所で……身体が入りますからね。水位が上がりますから。そういう点、気をつけてや
つてるんですけど、少しケチな親父でして、家内にもお手伝いさんにも評判は良くないんです。

いま私達がこうしている間でも、世界のどこかで軍事衝突が行われているんじゃないかと思うんです
が、エネルギー問題を考えるとき、こういう国際情勢が気になるわけです。日本および周辺の安定、そし
て石油資源の確保という観点から考えると、これからの日本外交の難しさを感じますが、その点について
の総理のお考えをお聞かせいただきたいと思います。

大平 国際情勢が緊張しておると、エネルギーのもとになる原油なんかも、供給が将来どうなるんだらう
か、価格がどうなるんだらうかと心配されるのは当然だと思いますが、考えてみますと、石油危機が起こ
りまして以来、もうすでに五、六年たちますね。それでも、その間日本が必要とする原油は大体入ったん
ですね。大体予定どおり確保できておる。値段の方は、日本が決めるわけじゃございませんので、O P E
Cその他産油国が決めることでございますから、われわれは、手が届かない所にあるんでございましてから、
私は、まず第一に、この問題は、皆が心配してどうなるという問題じゃないんで、冷静に対処しなければ
ならん。落着いて対処しなければということが一つ。それから、われわれは、外のことを心配するよりは、
身の回りのことを心配して、一番大事なことは、世界で二番目の消費国でございますから、日本のエネル
ギーの消費が段々沈静してくると、日本の消費量が減ってくるようになりますと、世界全体の大きな緊張
を解く大きな力ですからね。私どもの周辺をまず心配しようじゃないか。外向きのことは、私らに任せて
おいていただいてね。省エネの方をしっかりとお願いしたい。

われわれ産業界の第一線に立つて仕事を進めていくという立場から率直にいわせていただくと、エネルギー問題に対する政府の対応はおくれているのではないかと思えます。そこで国際情勢に対する情報収集をちゃんとやっているかとか、それに基づく情勢判断が適確になされているか、大変心配でならないというのが率直な感じですよ。ご意見を聞かせていただきたいと思えます。

大平　ところが、先程申しましたように、それでは、日本が必要とする原油を手にいれることができなかったかどうか。できたじゃございませんか。よその国より高く買わされておったか。必ずしもそうじゃないでしょう。日本人というのは、自分の政府のやっていることというのは、手ぬるくて心配だということだけども、日本の政府は、そんなにお粗末じゃありませんよ。もっともわれわれも懸命に努力せいやいけませんけどね。

昭和四十八年のオイルショックを契機に、日本経済は高度成長から低成長に移行したといわれますが、いま原油価格が高騰する中で日本経済はどうなるのかをお考えをお聞かせ下さい。

大平　第一次石油危機のときには、一挙に四倍に上がって、今度の場合は、去年一年で二倍に上がったわけですが、ところが上げ幅は今度の方が大きいんですね。ですから第一次の値段が四倍に上がった時に、世界は、おそらく日本はこれこれだばってしまっただけではなからるかとか、石油につきりきった日本は、原油が一時に四倍にはね上がったわけですから、日本はおそらくまいってしまっただけなからるかとかとみておたら、みなで、そんな努力で、ともかく、世界で一番うまく対応をしたんじゃないんでしょうか。

つまり、そんなに上がったけれど、物価は、そんなに上げなかった。今度も、私は、これを克服できない

いはずはないと。一の谷の話じゃないけれども、鹿が越えた道は馬が越えないはずはないんでね。第一次石油危機を乗り切ったわれわれだもの、第二次石油危機を乗り切れないはずはないじゃないか。これは、世界がそつ見てますよ。皆さんよりは、世界の方が日本は必ずこれを乗り切れるぞと見ている。政府はみなそれを計算にいられて、来年度の物価は六・四パーセント程度におさえようと目論見を立てていま努力をしていますが、私が、いろいろの方々、エコノミストのご意見を聞いてみますが、これはやれない相談じゃないというんだ。やれるかやれないか、可能か不可能かを問う前にやろうじゃありませんか。

物価についておたずねします。今年の卸売物価は昨年に比べますと約二〇パーセントも上がっておりまして、この最大の原因は、やはり、原油価格の値上がりだといわれております。今後、消費者物価にも大きく影響が出ることは想像できますし、現に公共料金もつきつきに上がってまいりまして、私たち、生活していく上で非常に先行きが不安ですが、物価対策は大丈夫なんでしょうか。

大平 石油危機に対応する採点は、やっぱり物価に対してちゃんとした対応を示さなければいけないわけで、政府も、物価対策は最大の問題だと思ってるし、これが政府にとって死活の重要な問題だと思ってるんです。だから、去年一年、原油が上がってきて卸売物価が仰せのようにつながってききましたが、幸い消費者物価は落ちついてきたんですね。

これが第一次石油危機の時と違うんです。去年は、ご案内のように卸売物価は上がってきたが、消費者物価は上がらず、この値上がりがちにいずれ反映しますけれど、その反映の度合いをブレーキをかけたまま、できるだけ抑えていこうと政府がやってまいりました。先程申し上げましたように、六・四パー

セントというような所でやりようによっておさえられないはずはないと、卸売物価が上がりましても、それを全部計算にいれて、われわれはこの程度でやってみせますといまやっているんだから、大丈夫ですかと言つ前に、一緒にやるうじやないですかと、そういう気持ちでみな協力してくれなけりゃ。物価政策というのは、政府がやるものであつて、俺達は知ったことじやないと言わんでね。国民と一緒にやらんかいということですからね。政府がそのようにやるうじやないんだから、それを鞭撻して協力してやるうじやないかという気持ちになつていただかないといかんと思つんだが。

石油には合成繊維のような素材としての重要な役割りがあります。一瞬のうちに燃やしてしまうのは勿体ない。石油を貴重な素材として長く利用していくためにサンシャイン計画をもつと推進すべきだと思いますが？

大平 このころ、ノーブル・ユースという言葉がはやってありますが、おっしゃるように、石油の使い方としてはノーブルではないです。これは、原料としてとつておいた方がいい。それからサンシャイン計画、私ども技術者でなくて良くわかりませんが、一番頼りになる、そして未来のあるエネルギー源ではないかと推奨するむきもある。それはそれとして、開発に向かつて努力しなければいけないんじゃないでしょうか。

日本人は、環境の変化に柔軟に対応できる能力を持っていると思ひますが、そういう日本人の特質について、総理はどのようにお考えですか。

大平 非常に質的に高い新鮮な労働力、技術力、経済力を一番豊かに持っている国じやないかと思ひます

し、またそれがある種の若さを持っていきまして、熟し切った社会ではない、まだ高齢化社会にもなり切っていない若さを持っている国でございまして、社会的にみましてもヨーロッパやアメリカと比べて家庭の中でも職場の中でも、独特の規律、慣行、制度といったものを身につけておりますし、ただ困ったことには閉鎖的なんです。他民族とのおつき合いが下手で、日本人の世界の中になかなか外国人が入ってこれないんですね。何か壁があつて入れないという国際性に欠けているところがあるわけで、非常に優れているが何となくまだ国際的に未熟だというところがございましてね。それから、頭脳は、数学をはじめめとして、非常に秀れたものを持っていますから、高度の技術開発力を多分に持つておるし、ともかく、われわれは相当の民族だという誇りを持つていいと思いますが、同時に非常に大きな欠陥も合わせて持つておるといふことを自覚しないと、これからの国際化時代はなかなか生きられないんじゃないかという思いがいたします。

司会 この対話集会を通じて、省エネルギーは決して単なるケチとか後向きの問題ではなくて、日本人がより充実した暮らしを選ぶためにはどうしても避けて通ることのできない道筋であるといったことをおくみとりいただけたと思います。また激務の中を縫いましてこの対話に参加され、発言をされた大平さんにお礼を申し上げたいと思うと同時に、これからも、こういった私どもの職場、暮らしの中にどんどん足を運んでいただきたいということをお待ちして、この集会を終わりたいと思います。どうもありがとうございます。